

平成 30 年度第 3 回大野城市上下水道事業運営審議会 会議録	
日 時	平成 30 年 11 月 1 日 (木) 14 : 00 ~ 15 : 10
開催場所	市庁舎本館 4 階 全員協議会室
出席者	審議会委員 : 広城会長、鳥居副会長、斧田委員、小原委員、高原委員、田口委員、西本委員 以上 7 名 上下水道局 : 賀村上下水道局長、原田企業総務課長、中野上下水道工務課長、松竹料金施設課長、多々良浄水課長、他 8 名 (係長、担当) 以上 13 名
欠席者	なし
傍聴者	なし
議 題	① 大野城市上下水道事業第 3 次中期経営計画の財政収支計画について
資 料	① 【資料 1】修正箇所一覧 ② 【資料 2】大野城市上下水道ビジョン 大野城市上下水道事業第 3 次中期経営計画 (案) ③ 【資料 3】財政収支計画補足資料 (水道・下水道)
議 事	<p>◇開会</p> <p>◇会長あいさつ</p> <p>◇傍聴人の確認 (傍聴人なし)</p> <p>◇報告事項</p> <p> 前回からの修正点の説明</p> <p> 【資料 1】修正箇所一覧</p> <p> 【資料 2】大野城市上下水道ビジョン 大野城市上下水道事業第 3 次中期経営計画 (案)</p> <p> (市) 資料 1 に沿って、前回からの計画 (案) に対する修正箇所について説明。</p> <p> ◆質疑</p> <p> (委員) なし</p> <p>◇議題</p> <p>① 大野城市上下水道事業第 3 次中期経営計画の財政収支計画について</p> <p> 【資料 3】財政収支計画補足資料 (水道)</p> <p> (市) 資料 3 に沿って、水道事業の財政収支計画について説明。</p> <p> ◆質疑</p> <p> (委員) ① <u>収益的収支の推移</u>について、平成 32, 37 年度の単年度損益がマイナスになりますが、グラフに説明があるとわかりやすいと思います。</p> <p> (市) 本編 P. 41 に同様のグラフがありますので、説明を追記します。</p> <p> (委員) 平成 36, 37 年度は、給水収益以外の収入が一時的に増加していますが、なぜでしょうか。</p> <p> (市) 繰延収益として計上されている長期前受金は、減価償却見合い分について年次的に収益化していますが、平成 36, 37 年度は、浄水施設の統廃合 (牛頸</p>

浄水施設の廃止)の実施に伴い、未収益化分を一括して収益化するため増加しています。

(委員) ③ 留保資金の推移について、留保資金が平成40年度には10億円程度まで減少しますが、国からの補助金がないことが原因でしょうか。

(市) 今後、水道施設の再編事業が始まりますが、それに伴い事業費がこれまでより年間約1億円増えることと、留保資金が平成29年度末現在23億円ありますので、留保資金の活用や企業債の借り入れを抑制し、全体的に調整しながら、必要運転経費である9億円を確保して進めたいと考えているため内部留保が減少しています。

(委員) 補填財源残高は一般財源から入ってくるものでしょうか。

(市) 補填財源とは、収益的収支で生じた利益や、現金支出を伴わない損益勘定留保資金を資本投資資金としてストックしているものになります。

(委員) ④ 企業債残高の推移について、企業債の金利は何%ですか。

(市) 昨年ですと、固定金利で0.5%、変動金利で0.3%程度です。

(委員) 金利が上昇傾向ですが、繰上げ返済を検討していますか。

(市) 下水道については、繰上げ返済を実施予定ですが、水道事業については再編事業を実施するための資金が必要となるため、繰上げ返済は考えていません。

【資料3】財政収支計画補足資料（下水道）

(市) 資料3に沿って、下水道事業の財政収支計画について説明。

(委員) ① 収益的収支の推移について、単年度収支は平均2億円の利益、企業債残高も減少し、累積損益が平成40年度に8億円となり、安定した経営が成り立つ見込みであると思います。その場合、平成36年度以降に使用料の検討が必要でないかと思います。使用者に還元してはいかがでしょうか。

(市) このシミュレーションどおりに進むとは限りませんので、今後5年間は経過を見ながら調査・研究し、次期計画を策定時に使用料について検討を行いたいと考えております。

(委員) 水道加入金や料金については、今後5年間は変更しないとのことですが、水道加入金は、近隣よりも高く、大口の井戸水利用者にとっては、水道加入の抵抗になっているのではないかと思います。次期計画期間中に料金体系について研究するということになっていますが、そういう観点からも研究をお願いします。

(委員) 大野城市は水源に恵まれておらず、水を買わないといけない状況であり、一度値下げすると簡単には値上げはできないので、慎重に考えなければならないと思います。

(委員) 「水道加入金」「料金収入」「水源確保」この3つのパラメータを、将来時点において連動させた時に最適解を導き出すことが必要であると思います。

(委員) ② 資本的収支の推移について、建設改良費における汚水と雨水の割合はどれくらいでしょうか。

(市) 実施計画に計上している事業費としては、汚水の割合のほうが大きくなっています。

(委員) ④ 企業債残高の推移について、繰上げ返済を平成 34 年度から行う理由を教えてください。繰上げ返済は平成 34 年度のみですか。

(市) 平成 33 年度までは、単年度利益が減少する状況にありましたが、平成 34 年度から単年度利益に加え、留保資金も上昇傾向にあるため、平成 34 年度より繰上げ返済を行うこととしました。現在のところ、平成 40 年まで実施する方針です。

(委員) 金利が高いものから返済するのでしょうか。金利はどれくらいですか。

(市) 国から借りているものは、4%程度の金利のものがありますが、残り期間分の利息も返済する必要があるため、今回は、市中銀行から借り入れたものを対象とします。市中銀行の中で一番高い金利は 0.753%です。

(委員) 早めに少しずつ返済はできないのでしょうか。金利上昇や健全化の観点から少しでも早く返済したほうがよいのでは。

(市) 今後 3 年間の経過をみて、判断したいと考えています。

(委員) 平成 40 年度の企業債借入れがそれまでと比べて、1 億円程度増えている理由を教えてください。

(市) 平成 40 年度からのストックマネジメント事業の事業費増に伴い、企業債の借入れも増えています。

◇事務連絡

次回審議会予定：日時未定

審議内容：答申案の審議

◇閉会の挨拶(賀村上下水道局長より)

以上